



# 2014 年次報告書 Annual Report



保養プログラム：大阪

公益財団法人 日本YWCA

# 女性と子どもたちの 安心と安全のために



## 日本YWCAの2014年度

東日本大震災被災者支援、例年のスタディツアーのほかに、  
中高YWCA全国カンファレンスなどの全国規模の研修、  
海外研修等が行われました。

292名 保養プログラムの参加者、 保養プログラムにボランティアとして関わった人々 400名

127名 (36家族) セカンドハウスプログラムの参加者      カーロふくしま利用者 966名

221名 スタディツアーの参加者、 スタディツアーにボランティアやリソースパーソンとして関わった人々 100名

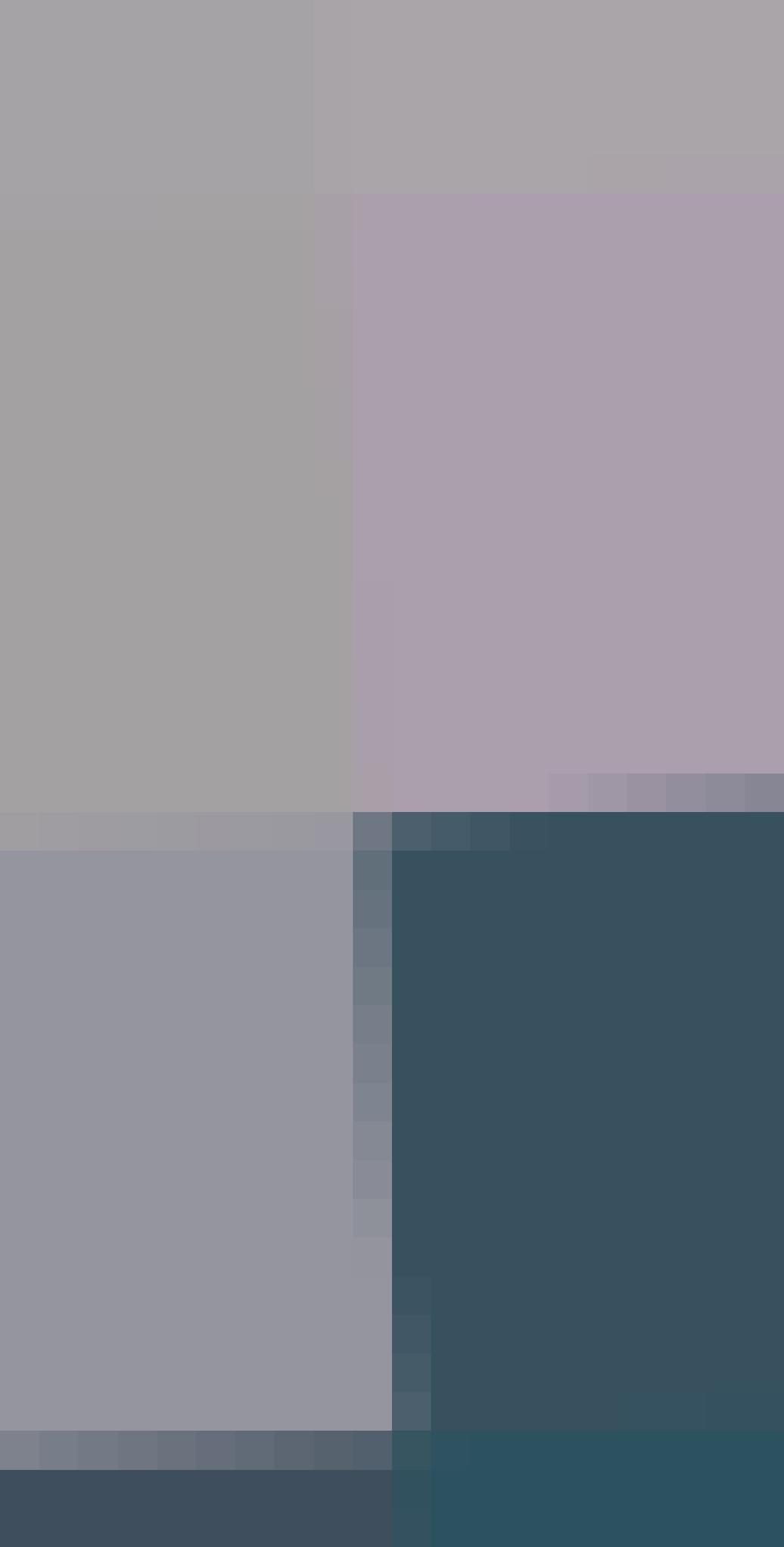
193名 中高YWCA全国カンファレンスの参加者、 カンファレンスにボランティアやリソースパーソンとして関わった人々 85名

6名 海外研修に派遣した人数      日本YWCAの活動の企画に参加したボランティア 1,660名

**YWCA(Young Women's Christian Association)は**、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。1855年に英国で始まり、現在世界120あまりの国で、約2500万人の女性たちが活動しています。スイスのジュネーブに世界事務局があり、国連の諮問機関です。日本においては、1905年の設立以来100年以上にわたって、さまざまな社会貢献活動を展開しています。

**日本YWCAは**、2013年4月に公益法人となり、24の地域YWCA、36校の中高YWCAとともに、女性と子どもの安心と安全のために次のような事業を行っています。

- ◎ 平和・人権・環境などグローバルな課題について学習及び普及活動を行い、かつこれらの問題解決のために若いリーダーシップを養成する事業
- ◎ 青少年の健全な心身育成に資する事業
- ◎ 国連機関および国内外のNGOとの協働や機関紙・ウェブサイトでの情報配信等を通して行うアドボカシー（啓発・政策提言等）事業
- ◎ 国内外の災害や紛争等に対する緊急支援事業
- ◎ 地域社会に貢献するボランティアのリーダーシップ養成事業



# 2014年度のお礼と報告

石井摩耶子 代表理事



2014年度も多くの皆さまからのご支援に支えられて、日本YWCAの活動を進めることができました。ご支援に心から感謝申し上げます。

価値観が多様化する今、心静かに考える時を持つと、時代の変化の中で変わるべきものと、変わってはならないものがあるということに気づかされます。日本YWCAが40年以上続けている「ひろしまを考える旅」は、8月に広島の実地を立ち、被爆者の証言を聴き、被爆地を巡って、自分たちで感じ考える旅です。また4年目の東日本大震災被災者支援事業は、放射能被害が深刻化する福島で、悩みを相談しづらい、弱い立場の女性や子どもたちの支えになりたいと、活動しています。

私たちは想像力を総動員して、その時々の中で苦境にある人々の「隣人になる」ことを考え、ともに歩み行動し続ける一人ひとりでありたいと願っています。これらすべての活動が、多くのボランティアの方々のご協力と、ご寄付に支えられていることに、感謝申し上げます。

俣野尚子 会長(理事)



日本YWCAは、3.11に生まれた子どもたちが20歳になるまで、被災した女性と子どもたちとともにあろうと決め、福島県を中心に支援を続けてきました。誰もが安心して暮らせる社会をつくること、寄り添いあって生きること、これが日本YWCAの希求する「平和」です。被災者支援事業は、この平和への希望を具体化したものなのです。

2014年も、多くの皆さまが、ご寄付、ボランティア、そしてお知恵やご意見をもって被災者支援事業を支えてくださいました。心より感謝いたします。

2014年の大きな成果として、44年ぶりに開催された中高YWCA全国カンファレンスを挙げなければなりません。未来の平和の創り手となる120名もの中高生が、全国から東京に集ったこの事業も、皆さまの大きなご支援なくしては、到底実現できませんでした。お支えいただき、心より感謝いたします

今後も、変わらぬご支援をお願い申し上げます。

## INDEX

東日本大震災被災者支援	3
国際協力	7
人材養成	9
アドボカシー	11
財務報告	13







# 東日本大震災被災者支援

静岡 蝶や虫を探そう!

日本YWCAでは、東日本大震災被災者支援活動をcom7300プロジェクトと名付け、長期支援を実施しています。comとはラテン語で「ともに」、7300は7300日。YWCAは20年間、被災地の人々、特に女性と子どもたちを対象に活動していきます。震災、特に原発事故によって被災された女性と子どもたちの心と身体をまもり、課題解決のチカラとなるよう取り組んでいます。2014年度の活動は、皆さまからのご寄付とドイツ Wuerttemberg Churchからの助成金によって支えられました。

東日本大震災被災者支援①

## 保養プログラム

# Refresh Programs

### 思いっきり遊ぼう! 葉っぱも虫もお花もさわれるよ!

保養プログラムは、参加者が被災地から離れ、心身ともにリフレッシュするためのプログラムです。全国各地の地域YWCAが、それぞれの地域の特色を生かしたプログラムを、夏・冬・春の子どもの長期休暇に合わせて行います。自然との触れ合い、海や川での水遊び、ボランティアの学生や地域の子どもたちとの交流など、楽しいプログラムがいっぱいです。

2014年度は、全国で行われた11回の保養プログラムに、おとな84名子ども130名が参加しました。



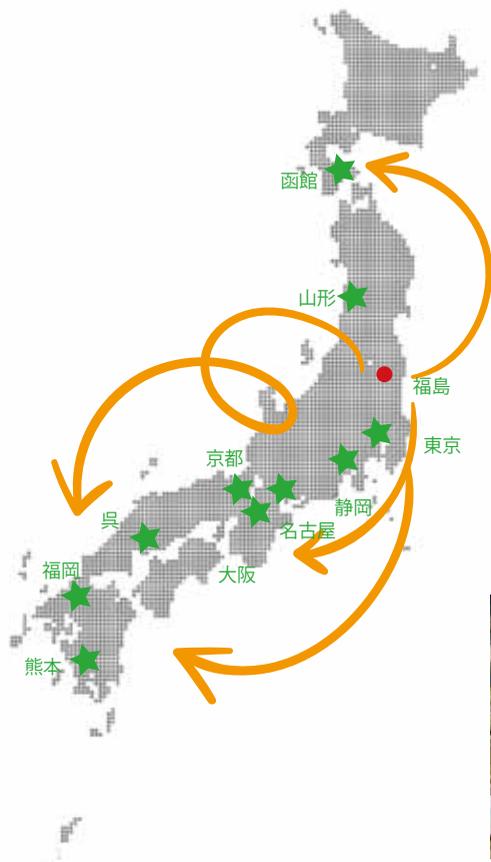
福岡 楽しいBBQ



呉 カニを見つけた!



静岡 清流で水遊び



- 函館「北の大地ですごく夏休みinはこだて2014」(夏)
- 福島「山形寒河江保養プログラム」(夏)
- 東京「冬のリフレッシュスティ」(冬)
- 静岡「親子わくわくピクニック」(夏)
- 名古屋「名古屋いりゃあせツアー」(夏)
- 大阪「わいわいスティプログラム」(夏・春)
- 京都「中高生対象 京都で進学を考えよう」(春)
- 呉「瀬戸内のオレンジアイランドで過ごす春休み」(春)
- 福岡「ほっと一息 ママと行く九州のんびりキャンプ」(夏)
- 熊本「福島&熊本キッズ 春のわくわくキャンプ」(春)

大阪 大阪城だよ!



呉 海岸の磯遊び



名古屋 そうめん流し



呉 甘夏みかんの収穫



大阪 水遊び楽しい!!



静岡 夏祭り 踊ろうか?



静岡 最後のお楽しみ ふわっと体験

### 参加者の声

「ホームステイ先では、まるで我が家のように心温まるおもてなしをいただいた。」  
 「子どものために来たけれど、私自身もこの環境と温かいおもてなしに癒された。」  
 「マスクを外し、元気いっぱい走り、笑う子どもたちの顔を見て、機会を与えてくださった方々に心から感謝。」  
 「大学生も子どもたちとよく遊んでくれた。自分たちのために日々を費やしてくれたことに驚きを感じた。」  
 「普通の生活を思い出させていただいたことに感謝。私たちにとっては“普通の生活”こそが“非日常”なのです。」

熊本 くまモンも来たよ~!





# Second House Programs

東日本大震災被災者支援②

## セカンドハウスプログラム

### 年間を通して家族で利用できます!

横浜・名古屋・神戸にある3軒のセカンドハウスは、被災者の方々が家族あるいはグループ単位で滞在し、自由な時間を過ごしていただくための世帯用の住居です。子どもがまだ小さい、あるいは兄弟の年齢差等があり保養プログラムに参加できない場合、または家族でリフレッシュしたい場合など、セカンドハウスを自宅のように利用することができます。これらの住居は大家さんから無償で提供され、地域のYWCAが管理を担っています。

日本YWCAは、移動が負担にならないよう、被災地からの交通費を補助しています。

2014年度は、皆さまからのご寄付とスイス mission21と、ドイツ Evangelical Mission in Solidarityからの助成金に支えられて36家族127名がセカンドハウスを利用しました。



### 利用者の声

「交通費が問題でした。とてもありがたい支援だと思いました。」  
「引越しを考えないわけではありません。でも現実的にお金・仕事・学校・家族・家・お墓のことがあり、決断できずにいます。だからこれがぎりぎりの選択なのだと、分かってください。」  
「大家さんに大変お世話になりました!ありがとうございます。」



神戸

名古屋



# Caro Fukushima

東日本大震災被災者支援③

## YWCA活動スペース「カーロふくしま」 女性と子どもの集いの場

JR福島駅の近くのYWCA活動スペース「カーロふくしま」。ここでは、地域の女性と子どもたちのためにさまざまな講座やイベントを企画しています。

誰でも気軽に立ち寄って、気軽におしゃべりができる場所、情報交換のできる場所を目指しています。

2014年度は、女性向けの講座として「女性のためのエンパワーメント講座」「パステルシャインアート講座」「ハンドメイド講座」などを開催し、また、子ども向けに「夏休み工作教室」「えいごでコミュニケーション」などを行いました。



これらの講座は1年間で62回開催され、のべ966名程の女性と子どもたちが「カーロふくしま」を利用しました。そのほか、保養プログラムの地域YWCAのボランティアと参加者が、またセカンドハウスの大家さんと利用者が福島で再会する場としても活用されました。



また、保養を実施するYWCA以外のさまざまな団体とのつながりも大切にしています。「カーロふくしま」はこれからも福島における保養プログラムの拠点でありつづける予定です。

2014年度は皆さまからのご寄付とNCC JEDROからの助成金によって支えられました。



### 利用者の声

「ここでの出会いが励み。震災後、自分の考えがなかなか言えない社会の中で、ここは特別解放される。」  
「ここで講座を受けたあと、『自分も人のために何かしたい』と思った。そしてセラピストの資格を取った」



3月8日国際女性デー ニューヨークでジェンダー平等を求めて行進

## 国際協力 世界に広がるYWCAのネットワークを通して

自然災害や紛争などが起こった場合、支援の手が届きにくいのは社会の片隅に追いやられた女性や子どもたちです。日本YWCAは、世界YWCAや現地のYWCAを通じて、緊急被災者支援を行っています。

### 災害時緊急支援

2014年、西アフリカを襲ったエボラ出血熱。日本YWCAはリベリアYWCA・シエラレオネYWCAが実施した「エボラ出血熱感染予防プログラム」を支援しました。支援金は①予防に必要な知識の教育と啓蒙。特に治療や介護の責任を負うことが多く、感染の危険が高い女性と少女の予防教育、②予防教育を行う女性たちのトレーニング等に用いられました。



### オリーブの木キャンペーン

パレスチナでは、長年にわたって大切に育ててきたオリーブの木が、紛争によって失われています。日本YWCAは、この状況を世界の人々に知らせ、国際的な連帯によって防止しようとしている現地のNGO「JAI (Joint Advocacy Initiative)」\*を支援して、破壊されたオリーブ畑にオリーブの苗木を植える活動を行っています。

3,000円のご寄付で1本のオリーブの苗木を植えることができます。2014年度は、日本から413本のオリーブの木を植えるための募金を送りました。

\*JAIはパレスチナYWCAと東エルサレムYMCAとの共同の取り組みです。



オリーブの苗木を植える

### パレスチナYWCA支援

パレスチナでは長引く紛争によって生活の基盤が損なわれ、時には生命がおびやかされる危機が今も続いています。日本YWCAは、パレスチナYWCAが実施している、紛争解決に向けたリーダーシップトレーニングや女性の自立のための職業訓練、保育所運営などを支援しています。2014年度はパレスチナYWCAが主催する国際会議に2名のメンバーを派遣する予定でしたが、情勢悪化のため、派遣を見送りました。



そそり立つ分離壁





# 国際会議・海外プログラムへの派遣

## 「国連女性の地位委員会 (CSW)」@ニューヨーク 3月5日(木)～13日(金) 派遣1名

日本YWCAは、毎年CSW (Commission on the Status of Women) にメンバーを派遣しています。「北京女性会議」から20年目となる第59回CSWにも1名を派遣しました。YWCAは、ジェンダー平等、自由と自己決定の尊重など、女性のあらゆる権利が実現すること、全ての女性のエンパワメントを目指しています。



## 「原子力から再生可能エネルギーへの転換を求める国際会議」@ドイツ

3月2日(月)～14日(土) 派遣1名

東日本大震災後、ドイツが国内のすべての原子力発電所(以下、原発)の稼働を2022年までに停止することを決定したことはよく知られていますが、この決定に至った背景には、チェルノブイリの事故以来、市民が主体的に活動してきた歴史があります。

ドイツで開催された今回の国際会議には、ドイツ・日本・韓国などからの参加者が集まり、目先の豊かさではなく、命を大切にす本当の豊かさを地球規模で求めなければならないということ話し合い、未来に向けた連帯について確認しました。日本YWCAからは1名が参加し、福島の実況報告を行いました。

ドイツでは福島の実況情報はほとんど得られないため、日本YWCAからの報告は、地元メディアにも注目されました。特に、福島の街中に除染土が放置され、低線量被曝のおそれがある状況の中で、子どもたちがその横を歩いて毎日登校している様子は、人々に大きなショックを与えました。

ドイツでは、チェルノブイリの経験から、保養の必要性がよく理解されており、日本YWCAが行っている被災者のための保養プログラム やセカンドハウスプログラム に大きな関心が寄せられました。福島の子どものための保養のために、ホームステイの受け入れの申し出もあり、2015年度の事業へとつながる予定です。

日本YWCAのメンバーは、この会議の終了後、ドイツとスイスの教会や関係団体も訪問し、これまでの支援への感謝と継続的な支援をお願いしました。



集会に集まった市民



デモ行進

## 「アジア次世代リーダーシッププログラム SEAL2014 (School for East Asia Leadership) —豊かな地域でつながるアジア@韓国」

8月29日(金)～9月2日(火) 派遣2名

## 「家族中心アプローチを通じたドメスティックバイオレンス防止」@台北

9月25日(木)～27日(日) 派遣2名





# 人材養成

「平和」「人権」「環境」「教育」「女性への暴力」「HIVとAIDS」「性と生殖/健康」など女性と子どもに関わる地球規模のグローバルな課題を普及啓発することを目的に、若い女性を対象とした以下のプログラムを実施しました。プログラムでは課題の現場への訪問を重視しフィールドワークを行い、ました。

## ひろしまを考える旅2014 8月7日(木)～8月9日(土) @広島

「平和な未来を創るために 今、伝えたい想いがあります～大切な命を守るために～」

参加者：72名（中学生14名、高校生10名、大学生8名、社会人14名、海外ゲスト4名、通訳3名、ボランティア11名、スタッフ2名、インターン・ボランティアリーダー6名）

69年前のヒロシマとナガサキ、その後も地球上で引き続き起こっているヒバクについて、中高生・大学生を中心とした全国からの参加者、留学生および海外参加者を招聘して共に学び、考える平和学習プログラムを広島で実施しました。

基調講演は広島市立大学広島平和研究所教授田中利幸さんの「核兵器・原発・戦争責任～沼田鈴子さんの目で見える放射能被害と戦争の非人道性～」。広島平和記念資料館を訪れ、被爆証言を聴きました。

フィールドワークでは、①広島城周辺市内コース ②中高生が伝えるひろしまコース ③文学から考えるひろしまコース ④韓国・朝鮮人被爆者の歩みコースの4コースに分かれ、原爆の跡を巡りました。

### 参加者の声

「被爆者の方の実際に体験したことを聞き、心にしみました。今までは戦争はしてはいけない!と何となく思っただけだったけど、この旅で、しっかり平和を守ろう!!と思えました。私たちの未来は私たちが創るのだから。」



フィールドワーク



## 日韓ユース・カンファレンス2014 8月16日(土)～18日(月) @広島、山口県上関町祝島

「まだ原発やってるの?原発が抱える矛盾」

参加者：35名 日本15名(ユース12名、ボランティア1名、スタッフ2名)、韓国20名(ユース17名、ボランティア1名、スタッフ2名)

参加者は、互いの国の原子力発電をめぐる状況をわかち合い、溝田一成さん(「原発はごめんだヒロシマ市民の会」)による講演「日本のエネルギー政策;世界の情勢と比較してー」を通じて、原子力推進の政策や、脱原発社会、特にドイツの取り組みについて学びました。また、山口県・上関町祝島を訪れ、住民たちの上関原発建設反対運動や、自然とともに生活する島の暮らしについて話をうかがい、大量生産・大量消費の社会と原発のない社会について話し合いました。

### 参加者の声

「豊かさとは何か」を考えました。私は、祝島の生活に感心する一方で、今私たちが受けている物質的な豊かさを今すぐ手放すことはなかなか難しいと思いました。でもその豊かさが、他人の生活を踏みにじってよいわけはありません。」



グループディスカッション



祝島の棚田





## 中高YWCA全国カンファレンス 7月31日(木)～8月2日(土) @東京

「世界につながるいのちのチカラ」

参加者： 23校 193名(生徒119名、顧問28名、ボランティア12名、リソースパーソン32名、スタッフ2名)

全国の中高YWCAで活動している中学生・高校生のリーダーシップトレーニングを目的として、毎年地区ごとにカンファレンスを実施しています。2014年度は地区のかきねをこえ、東京に集まって全国カンファレンスとして実施しました。

金香百合さん(ホリスティック教育実践研究所所長)の基調講演からは、金さんの人生のさまざまな出来事を通して、人を生かすチカラとは何かについて示唆を得ました。

Y's Wonderful Nightでは、世界各国のユースたちからのビデオメッセージをみて、各国のユースの取り組みを知り、またYWCAのネットワークが、世界の女性や少女の課題解決のためのチカラとなることを知りました。フィールドワークでは、人・文化・歴史に触れ、初めて知るさまざまな出来事について考え、分かち合いました。

ワークショップ&フィールドワークは、①スカイツリータウンで平和を考える、②Y田ブルシェと行く 第五福竜丸、③国立療養所多磨全生園と国立ハンセン病資料館、④芝浦と場見学ーお肉を通して人権を考える、⑤川崎で見る在日の歴史と課題ー戸手地区と桜本地区、⑥⑦ゲストと行く憲法ミステリ〜ツアー〜、⑦なにかとニュースな「靖国神社」、⑧ガールズ ビーアンビシャス、⑨まじめな まじめな 恋愛講座、以上9グループに分かれました。

これらのプログラムを通して、一人ひとりが「いのち」が大切にされる平和な世界をつくり出すチカラになることを決意しました。



## 講演会・講座



私たち日本YWCAは、国際規模の社会貢献活動を推進し、その質を維持するために、継続したリーダーシップトレーニングの実施が不可欠であると考えます。全国規模の集会や講座等の社会貢献活動プログラムの企画運営は、ボランティアが主体となって行っています。その中でマネジメントやファシリテーション力を養い、また、プログラムへの参加を通して、社会状況分析する力を養い、国際的視野に立つ人材を育成することを目指しています。

- 女性のためのエンパワメント講座@カーロふくしま 全2回 参加者26名
- 女性らしい国際貢献～国際NGOはじめの一步講座 全4回 参加者48名
- 女性たちのストーリー講座 全4回 参加者102名
- Let's心のメンテナンス講座@カーロふくしま 全2回 参加者17名
- ボランティア研修会 全6回 参加者58名
- 浜矩子講演会「一人ひとりが大切にされてこそ経済～さらば、アベノミクス」 10月4日(土) 参加者101名
- 怒れる大女子会 もういい加減にして「オッサン政治」!(マガジン9と共催) 11月22日(土) 参加者130名
- 怒れる大女子会第二弾 もういい加減にして「オッサン経済」!(マガジン9と共催) 3月14日(土) 参加者110名



研修会



# アドボカシー

女性と子どもの安心と安全のために、ジェンダー平等、軍事基地と女性への暴力の問題、非核・非暴力による平和、平和憲法を守るなどについて、啓発活動を行いました。

## ジェンダー平等

女性と子どもの権利を守るためには、私たちの社会をジェンダーの視点で問い直すことが求められています。ジェンダーの不平等の是正、女性への暴力の根絶は、世界平和の根源に密接に関わっています。日本YWCAは、すべての意思決定の場に女性が参加し、意見が反映されることの大切さを訴えています。

2014年度はボランティア向けのワークショップを2回、中高生向けのワークショップを1回実施したほか、ジェンダーについて考えるリーフレットを作成、国際ガールズデーと国際非暴力週間の周知に関わるアドボカシーを行いました。



ワークショップ



非暴力週間

## 平和憲法を守る

憲法すどころなどを使って、やわらか頭で憲法を考える日本YWCAの試みが、7月1日の東京新聞に、取り上げられました。ボランティア向けのワークショップ、中高生向けのフィールドワークを各1回実施したほか、他団体(マガジン9)と共催で「怒れる大女子会」を2回実施して、政治や経済活動における女性参画について考えました。「怒れる大女子会」もメディア(東京、朝日、読売新聞ほか)に大きく取り上げられました。twitterでも英文・和文で発信しています。



怒れる大女子会



中高YWCA全国カンファレンス



## 原発のない社会を目指して

3.11の東日本大震災とそれに伴う原発事故で、原発も核兵器と同様、長期にわたる深刻な放射能被害を引き起こすことが明らかになりました。私たちは、「いのち」を大切にする生き方を選んでいく決意を新たにしています。

2014年度は、ボランティア向けのワークショップ、中高生向けのフィールドワークを各1回実施し、さらに、大間原発について考えるスタディツアー(10月12日(日)～13日(月) 参加者21名)を行いました。また、昨年度に引き続きフリーペーパー「くらげ」を2回発行し、twitterで「核」に関する情報発信をしました。



大間原発スタディツアー

## 軍事基地と女性への暴力の問題

軍事基地の存在が、女性や子どもたちの安全と安心を脅かす存在であることは、沖縄をはじめとした世界各地の女性たちの証言から明らかです。日本YWCAは、沖縄YWCAと連携し、基地をめぐる問題を、女性の視点で取り組んでいます。

2014年度は「YWCAフェスタin沖縄」(2月14日(土)～16日(日) 参加者114名)を行い、沖縄の米軍基地の問題は日本社会全体の問題であることに立ち返り、基地があることによる諸課題について考察を深めました。

その他ボランティア向けのワークショップとフィールドワークを各1回行い、ニュースレター「きちきちニュース」を5回発行しました。



沖縄辺野古のテント前



フィールドワーク

## 声明・要請文

- ・「エネルギー基本計画」の閣議決定に抗議します(4月19日)
- ・「集団的自衛権」行使容認の閣議決定に強く反対し抗議します(6月17日)
- ・京都府京丹後市に米軍高性能レーダー「Xバンドレーダー」基地 建設工事強行に抗議する要請書(6月27日)
- ・辺野古新基地建設のための海上作業強行に対する抗議声明(8月22日)
- ・九州電力川内原発1・2号機審査書の白紙撤回を求めます(9月19日)
- ・辺野古新基地建設 埋め立て工事強行に対する抗議声明(1月28日)
- ・YWCAフェスタin沖縄 アピール文(2月16日)

# 寄付報告

2014年度も多くの皆さまから  
ご支援をいただきました!  
ありがとうございます。

\*1 日本YWCA指導者養成寄付金を含む

\*2 助成金を含む

日本YWCA賛助費	1,944,000円
ピースメーカーズ募金*1	7,263,543円
東日本大震災被災者支援募金*2	16,187,506円
災害時支援募金	403,869円
オリーブの木キャンペーン募金	1,239,651円
パレスチナYWCA支援募金	160,000円
世界YWCA総会派遣募金	1,624,507円
<b>合計</b>	<b>28,823,076円</b>

貸借対照表 2015年3月31日現在 (単位:円)

科目	当年度
<b>I 資産の部</b>	
1. 流動資産	
現金預金	65,577,220
未収金	1,761,100
貯蔵品	575,806
前払費用	993,887
仮払金	1,309,046
繰延税金資産	430,806
<b>流動資産合計</b>	<b>70,647,865</b>
2. 固定資産	
(1) 特定資産	
役員退職慰労引当資産	1,697,705
修繕引当積立資産	20,000,000
平和教育資金積立資産	1,620,213
全国会員総会積立資産	900,000
地域YWCA助成金積立資産	440,843
(公財)日本YWCA職員養成積立資産	370,660
預り保証金引当資産	20,000,000
世界YWCA総会積立資産	2,224,507
多文化共生募金/災害時支援募金準備積立資産	1,852,151
日本YWCA指導者養成積立資産	52,961,065
東日本大震災被災者支援募金支払準備積立資産	7,034,049
YWCA職員養成積立資産	34,383,213
定期預金	65,000,000
<b>特定資産合計</b>	<b>208,484,406</b>
(2) その他固定資産	
建物	278,179,181
構築物	3,160,973
什器備品	211,876
土地	572,810,843
リース資産	4,290,624
ソフトウェア	161,875
電話加入権	57,936
差入保証金	1,852,290
長期前払費用	74,564
繰延税金資産	0
<b>その他固定資産合計</b>	<b>860,800,162</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>1,069,284,568</b>
<b>資産合計</b>	<b>1,139,932,433</b>
<b>II 負債の部</b>	
1. 流動負債	
未払金	235,435
未払費用	230,886
未払法人税等	9,487,600
未払消費税等	3,908,200
前受金	9,336,938
預り金	324,106
仮受金	0
賞与引当金	1,507,115
<b>流動負債合計</b>	<b>25,030,280</b>
2. 固定負債	
リース債務	4,290,624
預り保証金	138,639,048
役員退職慰労引当金	1,697,705
<b>固定負債合計</b>	<b>144,627,377</b>
<b>負債合計</b>	<b>169,657,657</b>
<b>III 正味財産の部</b>	
1. 指定正味財産	
寄付金	22,581,763
<b>指定正味財産合計</b>	<b>22,581,763</b>
(うち特定資産への充当額)	(22,581,763)
2. 一般正味財産	947,693,013
(うち特定資産への充当額)	(144,204,938)
<b>正味財産合計</b>	<b>970,274,776</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>1,139,932,433</b>

正味財産増減計算書 2014年4月1日から2015年3月31日まで (単位:円)

科目	当年度
<b>I 一般正味財産増減の部</b>	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
<b>特定資産運用益</b>	<b>169,514</b>
受取利息	169,514
<b>受取会費</b>	<b>5,829,900</b>
受取会費	3,885,900
受取賛助費	1,944,000
<b>事業収益</b>	<b>122,002,749</b>
参加費収益	8,532,464
広報普及事業収益	1,166,785
受取賃料	112,303,500
<b>受取補助金</b>	<b>0</b>
受取民間補助金	0
<b>受取負担金</b>	<b>16,177,500</b>
受取加盟費	16,047,500
受取団体費	130,000
<b>受取寄付金</b>	<b>25,900,623</b>
一般寄付金(ピースメーカーズ募金)	6,243,543
受取平和教育資金寄付金振替額	597,100
受取多文化共生募金/災害時支援募金振替額	1,291,651
受取東日本大震災被災者支援募金振替額	16,758,229
受取地域YWCA助成金寄付金振替額	0
受取日本YWCA指導者養成寄付金振替額	1,010,000
<b>雑収益</b>	<b>2,056,415</b>
受取利息	20,456
雑収益	2,035,959
<b>経常収益計</b>	<b>172,136,601</b>
(2) 経常費用	
<b>事業費</b>	<b>144,168,268</b>
給与手当	32,377,967
通勤交通費	1,488,625
法定福利費	4,673,882
福利厚生費	70,641
賞与引当金繰入額	1,403,545
国際協力事業費	1,481,651
被災者支援協働補助金	5,400,000
会議費	6,258,238
旅費交通費	17,771,101
通信費	1,692,288
事務消耗品費	1,513,773
減価償却費	20,000,408
修繕費	771,480
印刷製本費	2,657,381
賃借料	6,858,289
水道光熱費	2,531,791
保険料	308,225
雑損失	1,125,384
諸会費	2,074,393
租税公課	18,075,849
支払寄付金	625,700
委託費	112,614
販売原価	8,414
新聞図書費	49,318
報酬費	222,740
支払手数料	641,298
雑費	428,744
運営管理費	13,544,529
<b>管理費</b>	<b>6,950,428</b>
給与手当	2,510,913
通勤交通費	129,951
法定福利費	235,753
福利厚生費	4,698
賞与引当金繰入額	103,570
役員退職慰労引当金繰入額	0
会議費	132,072
旅費交通費	212,520
通信費	38,594
事務消耗品費	15,695
減価償却費	127,369
修繕費	0
印刷製本費	54,839
賃借料	285,023
水道光熱費	86,771
保険料	147,984
租税公課	7,770
諸会費	78,500
委託費	0
報酬費	2,665,704
支払手数料	112,697
雑費	0
<b>経常費用計</b>	<b>151,118,691</b>
<b>評価損益等調整前当期経常増減額</b>	<b>21,017,910</b>
<b>評価損益等計</b>	<b>0</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>21,017,910</b>
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
<b>経常外収益計</b>	<b>0</b>
(2) 経常外費用	
<b>経常外費用計</b>	<b>0</b>
<b>当期経常外増減額</b>	<b>0</b>
<b>税引前当期一般正味財産増減額</b>	<b>21,017,910</b>
<b>法人税・住民税及び事業税</b>	<b>9,487,600</b>
<b>法人税等調整額</b>	<b>374,787</b>
<b>当期一般正味財産増減額</b>	<b>11,155,523</b>
<b>一般正味財産期首残高</b>	<b>936,537,490</b>
<b>一般正味財産期末残高</b>	<b>947,693,013</b>
<b>II 指定正味財産増減の部</b>	
受取寄付金	20,635,533
世界YWCA総会派遣募金	1,624,507
多文化共生募金/災害時支援募金	1,803,520
東日本大震災被災者支援募金	16,187,506
日本YWCA指導者養成寄付金	1,020,000
一般正味財産への振替額	△19,656,980
<b>当期指定正味財産増減額</b>	<b>978,553</b>
<b>指定正味財産期首残高</b>	<b>21,603,210</b>
<b>指定正味財産期末残高</b>	<b>22,581,763</b>
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>970,274,776</b>

# Donation

マンスリーサポーターは  
2015年度から始めました!  
是非サポーターになって  
ください!

2015年度も引き続きご支援をお願いいたします。

♥ マンスリーサポーター 月々**500円**から何口でもご支援いただけます。



マンスリーサポーターは活動全般をご支援いただけます。

<http://kessai.canpan.info/org/ywcaofjapan/>

♥ 賛助費 日本YWCA活動全般をご支援ください。 一口年額 **3,000円 / 5,000円 / 10,000円**

♥ 東日本大震災被災者支援事業 福島的女性と子どもたちをご支援ください! おいくらでも

♥ ピースメーカーズ募金 平和を創り出す女性のリーダーシップ養成に用いられます。 おいくらでも

♥ 災害時支援募金 緊急支援に用いられます。 おいくらでも

♥ オリーブの木キャンペーン募金 一口**3,000円**でオリーブの木1本がパレスチナに植えられます。

パレスチナから証明書が送られますので、お名前のローマ字をお知らせください。

## ご寄付には、以下4つの方法があります!

### インターネット募金

クレジットカード(VASA/Master)による募金です。手数料は不要です。  
マンスリーサポーターはこちらからお申し込みください

<http://kessai.canpan.info/org/ywcaofjapan/>



### かざして募金



スマホで募金ができます。

① スマホにかざして募金のアプリをiダウンロードする! iOSアプリ アンドロイドアプリ

② 右の女の子の画像(ピンクの枠)をかざして募金アプリで写真をとる!(タップする!)

③ 金額を選ぶ! 100円から寄付ができます。  
かざして募金からのご寄付は東日本大震災被災者支援募金になります。

- ★ ソフトバンクの場合...寄付金は毎月の電話料金に加算されます。  
(毎月自動で寄付ができます! 停止はいつでもできます。)
- ★ ドコモ、auなどの場合...寄付金はクレジットカードのお支払いになります。  
(1回のみのお寄付になります)



### 郵便振替

00170-7-23723 (加入者名)公益財団法人日本YWCA

\*通信欄で募金の種類をお知らせください。  
オリーブの木キャンペーン募金は、お名前のローマ字をお知らせください。

### 銀行振り込み

三井住友銀行 飯田橋支店 普通 1198743

(口座名義)公益財団法人日本YWCA  
コウエキザイダンハウジンニホンワイダブリューシーエー

ゆうちょ銀行 支店名019(ゼロイチキュウ)当座預金 023723

\*銀行振り込みの場合、メールで①募金の種類、②ご住所、③お名前、④オリーブの木の場合は、お名前のローマ字をお知らせください。

## 毎日のクリックでも応援してください！

日本YWCAは、ソーシャルグッドプラットフォームgooddo(グッドゥ)に参加しています。gooddoの日本YWCAのページに行き、毎日【応援する】をクリックをするだけで、あなたに代わって支援企業から日本YWCAに寄付が届けられます。また、支援企業にあなたのFacebookで「いいね!」すると、企業から日本YWCAに寄付が届きます。



クリック!



<http://gooddo.jp/gd/group/ywcajapan/>

公益財団法人 日本YWCA  
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11  
東京YWCA会館302号室  
☎ 03-3292-6121 FAX 03-3292-6122  
E-mail office-japan@ywca.or.jp  
<http://www.ywca.or.jp/home.html>

